

## 令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・第1学年は、日頃から「自分の考えを発信すること」を意識して指導しているため、定期考査での英文作成問題では無回答が少なかった。学習効果測定でも無回答のものはほとんどなく、積極的に話す・書くことに抵抗が少ない。
- ・第2学年は、ほぼすべての分類・区分において、目標値を上回った。入学以来、音声を重視して指導を継続し、「やりとり」を意識したペア練習では実際の場面で自由に会話をつなげられることを最終ゴールとして、今年度も毎回授業の中で扱う活動を継続した結果が表れた。また、「自分の考えや思いを既習の英語で表す」という思考力・判断力・表現力を向上させる活動も継続している。主体的に学習に取り組む姿勢のポイントが高く、生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいる様子が考察できる。
- ・第3学年は、「やりとり」を意識したペア練習を今年度も継続している。都のスピーキングテストに向けて対策を立て、「自分の考えや思いを既習の英語で表す」という思考力・判断力・表現力を向上させる活動を2学期以降も展開し、英語でのコミュニケーション活動に抵抗なく取り組める生徒の育成を目指していく。思考判断表現や、主体的に学習に取り組む姿勢のポイントが高く、1学年の時から生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいる様子が考察できる。

#### (2) 課題

- ・第1学年は、話す・書くことに抵抗がない分、間違った文法のままであることがとても多い。正しい文で話したり書いたりすることができるように、複雑な文法事項に関しては、様々な文例を通して習得できるようにしていく必要がある。
- ・第2学年は、全分類、区分の中で特に「読むこと」の領域に課題がある。第1学年の段階で、ある程度まとまった英文を読み、内容を理解することが課題であった。今年度は教科書のUse Readを扱う際、グループワークを取り入れ、「教え合い、学び合い」をすることで生徒の抵抗感を少しでも取り去ることをめざしている。生徒の「読んでみよう、大体分かる」という前向きな気持ちを育てていきたい。また、語形・語法の理解も課題と考えている。新しい文法の指導に際し、授業では、必ず第1学年の内容に戻って、生徒の理解を確認してから、新しい文法内容を指導するように心がけ、基本的な語形、語法の定着をさせていくことが必要であると考えます。
- ・第3学年は、対話文を読み、基本的な語形・語法を理解できていない生徒がみられるので、常に基礎的な事項に立ち戻り、文法に従って正しい語法で英文を作れるよう指導していく。中学校3年間の文法に関する問題集を使いながら新しい文法の指導に際し、授業では、必ず第1学年の内容に戻って、生徒の理解を確認してから、新しい文法内容を指導するように心がけ、基本的な語形、語法の定着をさせていくことが必要であると考えます。また、「読むこと」の領域にも課題がある。2学期以降は英文を毎回授業の中で扱う活動として取り入れ、生徒の抵抗感を取り去っていきけるよう扱う教材にも注意を払いたい。入試問題レベルの語数の長文も取り上げ、最終的には生徒が都立高校の長文問題に関して「むずかしくて読めない」ではなく、「読んでみよう、設問に取り組もう」という前向きな気持ちを育てていきたい。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	すべての領域で目標値を上回った。今後は「書くこと」を中心に納涼の向上を目指させる		
第2学年	目標値を上回ったがすべての観点、領域においてさらなる向上を目指す。	目標値を上回った。	
第3学年	目標値を上回られない項目があった。今後は「読むこと」の観点、領域においてさらなる向上を目指す。	目標値を上回った。	目標値を上回った。

### (2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を上回ってはいるが、単語の読みの正答率が低めである。聞くこと、読むことは高い正答率である。	聞くことの領域は目標値を大きく上回っている。書くことの領域では、英作文においてさらなる向上を目指すため、英文を書く活動を取り入れていく。	この観点だけ目標値をわずかに下回った。学習方法を含め指導を継続する必要がある。
第2学年	目標値を上回ってはいるが、読むことの領域では、さらなる向上のため、まとまった英文を読むことの活動を積極的に取り入れていく。	目標値を上回ってはいるが、リスニングの力の向上が課題である。書くことの領域では、目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っているがさらに主体的に学習に取り組めるような家庭学習の出し方などを工夫する必要がある。
第3学年	目標値を下回った。書くことの領域は高いが、読むこと、語法の知識の領域ではさらなる向上を目指す。基礎基本をおろそかにせず、繰り返し学習するような課題を与えていく。	目標値を上回ってはいるが、リスニングの力の向上と長文の読み取りが課題である。書くことの領域では、目標値を上回っている。	目標値を上回っているが、さらに主体的に学習に取り組むように、出来ないことや課題と考えている内容への解決方法をアドバイスし、自分で向上できる自立した学習者を育成していく。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	文法の定着を図るために、「使って覚える」授業展開を目指す。 タブレットを使った Quizlet や Kahoot! のようなアプリを活用しながら語彙力の定着を目指す。	英文を書く活動を授業でも積極的に行い、まとまった文を書くことができるようにする。 英問英答の活動を開始し、自分の考えなども表現できるように練習を重ねていく。	「英語学習の方法」を分かりやすく、繰り返し提示し、自学出来る学習者の育成に努める。 家庭学習を充実させるよう働きかけ、教材を示す。協働学習を通じて、教え合い、学び合う環境づくりに取り組む。
第2学年	基礎基本を定着させるために、授業における新出文法事項の導入時に、細かく、丁寧に行う必要がある。 問題演習には副教材のワークブックを確認する時間をとったり、自宅学習で何回も解き直しをするよう指導する。 まなびポケットのドリルパークを活用する。	リスニング演習を授業で積極的に行う。また、まとまった文を読み内容をとらえる練習を継続する。 英問英答の口頭練習も、決まった答えだけではなく、自分の考えを足して答えるように練習していく。 学習者用デジタル教科書を活用して自宅で教科書の英文や単語の発音を確認し練習できるようにする。	「英語学習の方法」を分かりやすく、繰り返し提示し、自学出来る学習者の育成に努める。 タブレットに自宅学習課題を提示し、その成果を指導する教員が評価するだけでなく、授業で生徒達が共有し学び合えるような工夫をしていく。
第3学年	基礎基本を定着させるために、授業における新出文法事項の導入時に、必ず既習内容の確認からスタートする。 問題演習には副教材のワークブックを確認する時間を取り、自宅学習で何回も解き直しをするよう指導する。タブレットを使ったまなびポケットのドリルパークや English 4 skills を活用して、家庭でも自分のペースで何度でも練習できる環境を整えていく。	リスニング演習を授業で積極的に行う。 英文を書く活動を帯活動で積極的に行い、まとまった文を書くことができるようにする。	家庭学習を充実させるよう働きかけ、教材を示す。 まなびポケットのドリルパークや、教科書やワークなどについているQRコードを予習と復習に活用する。 表現したいができなかった言い方を記録させクロームブックで調べさせたり、協働学習することによって、表現の幅を広げていく。